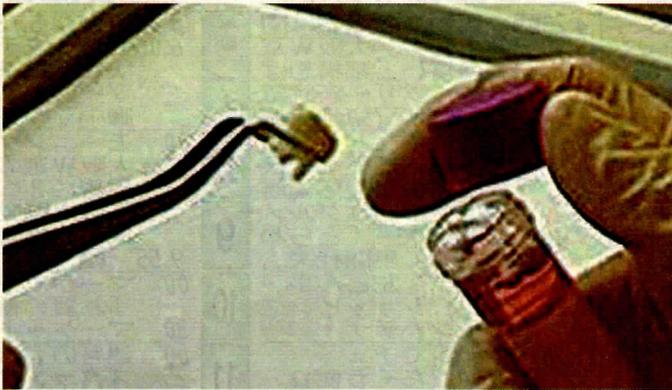


原発事故による放射能の影響で将来への不安を抱える県民は少なくない。健康被害を受けた場合に備えた取り組みが広がっている。歯の神経の細胞「歯髄細胞」を治療用細胞として保存、治療に用いる、再生医療推進機構(本部・東京)などが運営する「歯髄細胞バンク」に原発事故以降、特に本県から注目が集まっている。毛髪に放射性物質が含まれるため「毛髪が被ばく証拠となる」との学説がある」として県内の理容、美容業界では、毛髪の保存を勧める店も出てきた。

提携歯科医院で抜歯した歯を薬品の入った容器に封入する作業



Q 歯髄細胞バンク 再生医療機構が鶴見大と連携し2009(平成21)年から開始した。申し込み後、提携歯科医院で抜歯後同大に歯を送り、歯髄細胞を一定量

原発事故後、保護者ら注目

健康被害備え 歯の細胞保存

将来の再生医療に活用

被ばく検証用に毛髪も



福島市にある美容、理容店では、希望する客の毛髪をビニール袋に入れ、2年間保存する。

まで培養し、保管前検査を実施、培養後、氷点下19.6度の液体窒素タンクで保管する。登録した本人や、白血球の型が一致した場合の家族の再生医療にも利用できる。

「保険で心配拭えず」

同機構は鶴見大(神奈川県)と連携し2009(平成21)年から同バンクを開始。これまで、約350件の申し込みがあったが、事故後、本県からの問い合わせや申し込みが入るようになった。10月は全国で35件の申し込みがあり、そのうち本県以外の東北地区は6件、本県は12件で約34%。同機構の大友宏一代表は「原発事故の影響による健康被害に備えて子どもの乳歯細胞を保管したいという保護者が増えている」と語る。

歯髄細胞を利用した再生医療については、骨や神経、血管の再生治療の研究が進められている。保管しておいた細胞と将来の細胞を比較検査できるため、大友代表は「万が一の被ばく証拠や病態解明にも利用できる可能性がある」とも話す。

「がん保険には入ったけれど、心配は拭えなかった」

と話すのは、同バンクに中学2年生の長女と小学4年生の次女の申し込みをした鏡石町の女性(49)。長女は既に永久歯に生え替わっているため、親知らずを抜く時、次女は乳歯が抜ける時に細胞を預けるといふ。女性は一歯を抜く時まで数年あるので、少しずつ積み立てていきたい。値段を聞いた時は迷ったが、原発事故があった今では高くない。親としてやってあげられることはしたいと話す。

このような状況を受け、同機構は12月1日から、本県在住の申込者に対して10年間の基本登録料を通常29万5050円(税込み)のところ、25万(同)とする特別価格を設定する。大友代表は「福島県の人を少しでも支援できれば。申し込みが増加し複雑な心境だが、大切に細胞を保管したい」としている。問い合わせは同機構(電話0120-87-3180)へ。